



令和6年度神戸大学附属図書館資料展リバイバル展示

あの日 の神戸

— 記憶の継承 —

阪神・淡路大震災30年



30 years after the Great
Hanshin-Awaji Earthquake

パネル展 展示目録

令和7年6月10日(火)～

令和7年6月30日(月)

自然科学系図書館4階
オープンスクエア

上: 撮影: 大木本美通氏 (1997/4/27)
右: 撮影: 神戸大学附属図書館 (2024/9/20)

写真と地図で振り返る震災

30年前に震災で大きな被害を受けた神戸も復興を遂げ、歳月を経たことでその爪痕もほとんど感じられなくなっています。いま私たちが見ている街並みは震災の時はどのような様子だったのでしょうか？「長田区」「中央区」「灘区・東灘区」の3つのエリアを中心に震災当時と現在の写真から"あの日の神戸"と"私たちの今"を見比べます。



大正筋商店街(新長田)

左:撮影:和田幹司氏(1995/1/17)

右:撮影:神戸大学附属図書館(2024/9/11)

② JR六甲道駅

東西をつなぐ大動脈であるJR六甲道駅の被害は甚大だった。駅舎は倒壊し、高さ10メートルの高架も約2キロにわたって崩れ落ちた。陸の孤島と化し、本格再建に2年を要するとみられたが、懸命の復旧作業により、わずか74日後に早期開通を果たす。

六甲道駅南地区は、新長田駅南地区とともに、神戸市の震災復興再開発事業の対象地区となり、早期復興が進められた。現在では防災拠点としての機能も有した街区が形成されている。

(写真は久下正史氏撮影：JR六甲道西側高架上17日昼)

① 灘区・東灘区

神戸市で最も被害が大きかった東灘区では1,470人、灘区では934人の命が失われた。その大半が家屋や家具の倒壊によるもので、灘区・東灘区のみで神戸市全体の死者の52.6%に上った。神戸大学ほか多数の大学があり、20代の犠牲者も多かった。JRや各私鉄の高架橋や盛土が崩落し、阪神高速道路3号神戸線が横倒しになるなど、建物やライフラインも甚大な被害を受けた。

(現在の写真は全て2024/9/18撮影)

展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	電子版QRコード	請求記号等
JR六甲道駅付近	写真	1995(平成7)年1月 大浦逸人氏撮影『震災時の写真：JR六甲道駅付近・阪神電車新在家駅付近・三宮センター街』		震災-1-v86
菊正宗酒造記念館	写真	1995(平成7)年1月22日 酒井洗嘉氏撮影『震災記録写真：東灘・西宮を中心に』		震災-1-340
倒れるタンク(世界長酒造で)	写真	1995(平成7)年3月13日 大木本美通氏撮影『震災記録写真No.1(1995年1月～3月)』		震災文庫
JR六甲道西側高架上17日昼	写真	1995(平成7)年1月17日 久下正史氏撮影		震災文庫
六甲道駅の南側出入口付近	写真	1995(平成7)年3月13日 大木本美通氏撮影『震災記録写真No.1(1995年1月～3月)』		震災-1-95
六甲道駅の西端(北側)。高架線路が落下してガード下が通行できない	写真	1995(平成7)年1月17日 谷通好氏撮影『震災被災記録写真：灘区六甲道周辺を中心に』		震災-1-358
全壊したコープ六甲道店	写真	1995(平成7)年1月17日 進藤裕之氏撮影『阪神大震災記録写真集：ある大学院生の目を通して』		震災-1-95
国道2号より、桜口交差点	写真	1995(平成7)年3月5日 大木本美通氏撮影『震災記録写真No.1(1995年1月～3月)』		震災文庫
崩れ落ちた阪神新在家付近の高架。手前はコンビニエンスストアに並ぶ人ら。	写真	1995(平成7)年1月17日 前田耕作氏撮影『阪神・淡路大震災(記録写真)：1995.1.17～1995.9』		震災-1-v11
崩れた国道43号岩屋高架橋から落ちたトラック。	写真	1995(平成7)年1月17日 前田耕作氏撮影『阪神・淡路大震災(記録写真)：1995.1.17～1995.9』		震災-1-v11

③ 中央区

中央区は、繁華街である三宮、異国情緒が漂う旧居留地区、ランドマークのポートタワーがそびえる海沿いのエリアなどがあり、神戸の経済・観光・文化の中心を担っている。震災当時、三宮周辺部では中高層ビルの中間階が押しつぶされる中間層崩壊が起こり、旧居留地区では歴史的建造物である十五番館が全壊するなど大きな被害を受けた。そのような中央区の”あの日の神戸”と”私たちの今”を見比べる。（現在の写真は全て2024/9/20撮影）

④ 神戸交通センタービル(三宮)

神戸交通センタービルは5階部分が押しつぶされ、全壊した。9階建だったビルは、復旧工事で地下1階、地上10階建てとなった。

⑤ 神戸国際会館(三宮)

神戸国際会館は全壊し、取り壊しが決まった。1995年3月3日、音楽関係者約10名がお別れ会を行い、旧神戸国際会館との別れを惜しんだ。建物は再建され、1999年4月29日、新たにオープンした。

⑥ 三宮センター街(三宮)

三宮センター街は、1946年に誕生した商店街。震災でアーケードのモール屋根が崩れ、店舗の壁や看板が路上をふさいだ。当時の写真では、フェンスが立てられ、通行ができなくなっているとともに、複数の人がフェンス前で立ち止まり、三宮センター街の被害状況を気にする様子が見られる。1995年2月3日、ナガサワ文具センター・センター店が営業再開第1号となった。

⑦ 東門街

三宮の繁華街である東門街は生田神社の東側、南北をつなぐ蛇行道路に位置する。密集していた飲食店ビルや小売店は震災で建物が倒壊するなど甚大な被害を受けた。震災当時はこの場所にもゲートがあったが、今は姿を消している。

⑧ さんプラザ

1970年に竣工した三宮の商業ビル「さんプラザ」（地上10階、地下2階）は、震災で8階部分が押しつぶされ、7-10階部分を解体し撤去する工事が行われた。震災から約8か月後の9月10日に全面オープンし、センタープラザ東館、西館と共同で復活イベント「プラザ・グランドオープン・フェスタ」を開催した。

⑨ 旧居留地十五番館

1880年頃に建設された洋館（国の重要文化財）。震災で全壊したが、倒壊前の部材70%を使用して免震工法で1998年に建設当時の姿に再建された。

⑩ 神戸ポートタワー

1963年に完成したポートタワーは、震災の被害をほとんど受けず、震災から28日後の2月14日にライトアップを再開、4月8日から営業を開始して、神戸の復興シンボルとされた。2014年に国の有形文化財に登録されている。

展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	電子版 QRコード	請求記号等
そごう百貨店の北側の歩道橋から見た交通センタービルと阪急三宮駅ビル：1月26日の状況...	写真	1995(平成7)年1月26日 進藤裕之氏撮影『阪神大震災記録写真集：ある大学院生の目を通して』		震災-1-95
神戸国際会館	写真	1995(平成7)年1月18日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1 (1995年1月～3月)		震災文庫
三宮センター街の被害を見つめる見物人	写真	1995(平成7)年1月26日 進藤裕之氏撮影『阪神大震災記録写真集：ある大学院生の目を通して』		震災-1-95
東門街	写真	1995(平成7)年1月20日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1 (1995年1月～3月)		震災文庫
さんプラザビルと北側、ガード沿いの幹線道路	写真	1995(平成7)年2月4日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1 (1995年1月～3月)		震災文庫
倒壊した十五番館(旧居留地唯一の異人館)。後に再建された	写真	1995(平成7)年1月20日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1 (1995年1月～3月)		震災文庫
ポートタワーと中突堤の岸壁	写真	1995(平成7)年4月27日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.2 (1995年4月～12月)		震災文庫

⑪ 長田区周辺

神戸市西方の兵庫区・長田区・須磨区の写真を紹介する。このうち長田区では死者921人負傷者817人、その大半が火災被害によるものであった。JR新長田駅の北側では発災直後から火事となり、全焼棟数は4,759戸、神戸市全体の全焼棟数の68%に上った。倒壊による被害も多くみられ、倒壊戸数15,521戸で神戸市内では最も多かった。現在は再開発が進み、多くのマンションが立ち並んでいる。（現在の写真は全て2024/9/11撮影）

⑫ 大開通の道路陥没(大開)

神戸高速鉄道大開駅は地下駅構内を支える柱が損壊し、直上を走る国道28号が陥没する被害となった。8月13日に鉄道の運行が再開した後も、大開駅の復旧に時間がかかり、しばらくの間は全列車が通過していた。駅の復旧は1年後の1996年1月17日。

展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	電子版QRコード	請求記号等
兵庫区大開通の道路陥没(神戸高速鉄道大開駅の上)	写真	1995(平成7)年1月17日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1(1995年1月～3月)		震災文庫
上沢センター街	写真	1995(平成7)年1月21日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1(1995年1月～3月)		震災文庫
長田区五番町1丁目あたり(地下鉄上沢駅の標識がある)	写真	1995(平成7)年2月18日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1(1995年1月～3月)		震災文庫
長田区御菅地域の火災跡(菅原通3-5丁目、御蔵通4丁目)。神戸の震災被害では、長田区の大正筋と並んで、さまざまな形で取りあげられたところ(天皇、皇后の行幸啓とか、寅さんの映画ロケなど)。なお、「幸せ運べるように」の歌を作詩、作曲したのも、この近くにある御蔵小	写真	1995(平成7)年2月18日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1(1995年1月～3月)		震災文庫
新湊川西岸の新湊川公園。外国人や、東京の各大学ボランティアがテントを張って、風呂や食べもののサービスをしている。	写真	1995(平成7)年2月18日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1(1995年1月～3月)		震災文庫
長田区御船通1丁目あたりから、大道通1丁目を見る	写真	1995(平成7)年1月17日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1(1995年1月～3月)		震災文庫
大橋2丁目の火災	写真	1995(平成7)年1月17日 和田幹司氏撮影『震災写真集：長田区付近』		震災-1-v1
新長田1番街の南側入口	写真	1995(平成7)年3月29日 大木本美通氏撮影『震災記録写真』No.1(1995年1月～3月)』		震災文庫
大正筋商店街	写真	1995(平成7)年1月17日 和田幹司氏撮影『震災写真集：長田区付近』		震災-1-v1
一階部分が崩壊した建物	写真	1995(平成7)年1月26日 進藤裕之氏撮影『阪神大震災記録写真集：ある大学院生の目を通して』		震災-1-95
山陽電鉄須磨寺駅南側の商店街：まるでゴースタウンであった	写真	1995(平成7)年1月30日 進藤裕之氏撮影『阪神大震災記録写真集：ある大学院生の目を通して』		震災-1-95

震災のなかの神大と学生

経験したことのない大災害のなか、神戸大学ではどのような被害を被ったのか、また、学生や教職員はどのような対応に迫られたのでしょうか。被災時の神大の状況、学生の様子、ボランティア活動など、写真や記録などから紹介いたします。



展示資料名／パネル資料名	種類	発行年、出典資料	電子版 QRコード	請求記号等
発達科学部グラウンド	写真	1996(平成8)年 『兵庫県南部地震による震災の記録』神戸大学庶務部庶務課編		震災-8-90
人間科学系図書館(現:人間科学図書館)	写真	1995(平成7)年-1996(平成8)年 神戸大学附属図書館撮影『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』		震災-1-145
神戸大学の体育館で避難生活を続ける人たち。	写真	1995(平成7)年 前田耕作撮影『阪神・淡路大震災(記録写真):1995.1.17~1995.9』		震災-1-v11
人文・社会科学系図書館(現:社会科学系図書館)	写真	1995(平成7)年-1996(平成8)年 神戸大学附属図書館撮影『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』		震災-1-145
国際文化学部グラウンドの地割れ	写真	1995(平成7)年 久下正史氏撮影		震災文庫
保管庫が転倒した経営学部事務室	写真	1996(平成8)年 『兵庫県南部地震による震災の記録』神戸大学庶務部庶務課編		震災-8-90
国際・教養系図書館(現:総合・国際文化学図書館)	写真	1995(平成7)年-1996(平成8)年 神戸大学附属図書館撮影『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』		震災-1-145
神戸大学犠牲者慰霊碑	写真	2024(令和6)年 神戸大学附属図書館撮影		(担当者撮影)
周辺住民の避難 農学部避難所設置	写真	1995(平成7)年 『兵庫県南部地震(平成7年1月17日(火)午前5時46分)による農学部の被災について』		震災-8-v21
六甲台南食堂南側の通路	写真	1996(平成8)年 『兵庫県南部地震による震災の記録』神戸大学庶務部庶務課編		震災-8-90
自然科学系図書館	写真	1995(平成7)年-1996(平成8)年 神戸大学附属図書館撮影『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』		震災-1-145
神大生協食堂18日23:39	写真	1995(平成7)年1月18日 久下正史氏撮影		震災文庫
第一病棟1階パイプシャフト前の壁損壊	写真	1995(平成7)年 『阪神・淡路大震災神戸大学医学部記録誌』神戸大学医学部震災記録委員会編		震災-8-71
医学部基礎校舎北棟と南棟の渡り廊下のクラック	写真	1996(平成8)年 『兵庫県南部地震による震災の記録』神戸大学庶務部庶務課編		震災-8-90
附属図書館医学部分館(現:医学分館)	写真	1995(平成7)年-1996(平成8)年 神戸大学附属図書館撮影『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』		震災-1-145
他の機関から応援に駆けつけた看護婦の皆さん	写真	1996(平成8)年 『兵庫県南部地震による震災の記録』神戸大学庶務部庶務課編		震災-8-90
神戸大学医学部救急医療団救護所(雪御所公園内)	写真	1995(平成7)年 『阪神・淡路大震災神戸大学医学部記録誌』神戸大学医学部震災記録委員会編		震災-8-71
学舎正門周辺の植栽前の地面の陥没	写真	1995(平成7)年 『阪神・淡路大震災神戸大学医学部記録誌』神戸大学医学部震災記録委員会編		震災-8-71
看護学実習室散乱した実習機器	写真	1995(平成7)年 『阪神・淡路大震災神戸大学医学部記録誌』神戸大学医学部震災記録委員会編		震災-8-71
附属図書館(現:海事科学分館)	写真	1995(平成7)年-1996(平成8)年 神戸商船大学附属図書館撮影『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』[商船-12]		震災文庫
運輸省航海訓練所練習船実習生による海からの支援	写真	1996(平成8)年 『震度7の報告:その時、神戸商船大学では...』神戸商船大学事務局[編]		震災-8-103
神戸商船大学犠牲者慰霊碑	写真			提供:神戸大学大学院海事科学研究科
広島大学・岡山大学の炊き出し支援	写真	1996(平成8)年 『震度7の報告:その時、神戸商船大学では...』神戸商船大学事務局[編]		震災-8-103
グラウンド	写真	1996(平成8)年 『震度7の報告:その時、神戸商船大学では...』神戸商船大学事務局[編]		震災-8-103
崩壊した護岸と海水の流入	写真	1996(平成8)年 『震度7の報告:その時、神戸商船大学では...』神戸商船大学事務局[編]		震災-8-103

⑬ 神戸大学のキャンパス

阪神・淡路大震災によって、神戸大学では学生と教職員あわせて47名（旧：神戸商船大学を含む）の方が亡くなられた。負傷者は約600名。住居の被災は数多くあった。しかしながら、キャンパス内においては人的被害はなく、グラウンドの地割れ、設備や実験機器、研究データ等にこそ甚大な被害があったが、建物の決定的な被害は免れた。そのため、震災当日から多くの被災住民が避難に来られ、大学は避難場所を提供した。ピーク時の受入れ避難住民数は約3,610名だった（附属住吉小学校、旧：神戸商船大学を含む）。

⑭ 神戸大学学生によるボランティア活動

阪神・淡路大震災の1995年は、ボランティア元年と呼ばれる。ボランティアにおいて、学生は大きな役割を担っていた。神戸大学でも、学生有志による災害・復興ボランティアが複数誕生した。

⑮ 個人的活動から神戸大学学生震災救援隊の発足へ(1995.1.23-)

神戸大学学生震災救援隊（以下[救援隊]）発足に先駆け、学生による震災直後からの個人的活動があった。その一つが、震災当夜から翌朝にかけての炊き出しだ。まだ救援物資もなく、水道やガスも止まっている。そのようななか、神大生協の職員でもあった学生が、友人の学生たちと協力し、生協の食糧庫の米、個人の炊飯器、汲み置きの水を用いて、実に800個400食のおにぎりを避難者に提供したと記録されている。

その約1週間後、救援隊が発足した。救命活動や炊き出しといった緊急の支援に加え、2月には引っ越しの補助、仮設風呂の設営、パトロール、フリースクール「寺子屋」の運営、『救援隊通信』の発行、他ボランティアとの連携・協力等の広義の救援へ、3月には復興参加・支援へと移行していった。

救援隊は、「人間的な復興」に重点を置いた「地震をはねかえす耐震構造の人間関係」の構築を目指している。炊き出しは食料提供のみならず情報交換の場となること、パトロールは自立・互助を支援することを重視して実施された。人と人との繋がりを大切に、30年目を迎える今も活動を続けている。

⑯ 神戸大学医学部学生ボランティア (1995.1.24-[1995.3.31])

医学部では、救急医療団「神戸大学医学部災害ボランティア」が学部をあげて展開された。学生ボランティアは、附属病院の運営協力、学外に設置された救護所の広報等を行ったほか、個人的活動も含めると、延べ700名を上回る学生が参加した。学生独自の企画としては、留学生・就学生・在日外国人を対象に、日本語以外の医療相談窓口を設けた。英語だけでなく、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語が準備された。Kiss FM KOBE（ラジオ）やJapan Times（英字新聞）でも周知される等、大きな反響を得た。

⑰ 神戸大学美術科ボランティア援助隊 (1995.2.15～19-)

2月中旬には灘区の「灘災害ボランティア」の要請により、神戸大学美術科ボランティア援助隊が組織された。当時の教育学部・発達科学部（現：国際人間科学部）の美術科研究室に事務所が置かれたもので、70名の登録があった。活動はボランティア精神に基づいた「自らの自らによる契約」という形式で行われた。初期の活動は、路上のごみ拾いを行いながら近隣住民と対話・交流し、対応できる課題に取り組むというものであった。美術科という特徴を活かし、フリースクールの図工の授業実践にも参加した。第一段階のごみ拾いを終えた後は、災害弱者への支援強化や被災者の相互協力と自立の援助へと取り組みを進めていった。

展示資料名／パネル資料名	種類	発行年、出典資料	電子版QRコード	請求記号等
阪神・淡路大震災発災後の記録写真展示	写真	2024(令和6)年		提供：総合ボランティアセンター
『神大生のボランティア活動：その現状・課題・ニーズ』[神戸大学美術科ボランティア援助隊活動記録]	パンフレット	1995(平成7)年		震災-7-v209 震災-7-v210
灘チャレンジ2024	写真	2024(令和6)年		提供：総合ボランティアセンター
ボランティアバスプロジェクト活動風景	写真	2024(令和6)年『地域に出るー神戸大学ボランティアと社会貢献のススメ2024ー』地域連携推進本部ボランティア支援部門[編]		提供：ボランティアバスプロジェクト

年月日	震災直後からの状況（色無：神戸大学内、色付：兵庫県内他）
1995年 1月17日	5時46分に阪神・淡路大震災が発生 災害対策本部設置 神戸商船大学（現：神戸大学海洋政策科学部、以下[商船]）白鷗寮寮生による近隣住民の救助活動 神戸大学地震災害対策本部を設置 [商船]災害対策本部を図書館学生自習室に設置 各部局が職員・学生の安否確認・施設・設備の被害状況を調査開始 電気、通信、雑用水が一部復旧 農学部などで避難住民の受入始まる [商船]神戸商船大学の体育館、武道場、学生寮食堂などで避難住民を受入れる [商船]2教室（後に3教室）を遺体安置所として提供
1月18日	神戸市災害対策本部に「救援ボランティア」窓口を設置し、ボランティアの受付を開始 道路交通法に基づく交通規制開始（国道2号など） 生協文理学部店が米を供出、学生らが800個のおにぎりを作り避難者に配る（のち「神戸大学学生震災救援隊」の活動へ発展） 救援物資が届き始める
1月19日	関西空港へのフェリーが再開され、留学生の帰国が可能に
1月20日	自衛隊が六甲台グラウンド・発達科学部グラウンドを災害復旧の基地として使用開始 （六甲台グラウンド：2月7日まで、発達科学部グラウンド：4月26日まで）
1月21日	[商船]被災に伴う授業、期末試験等に関する臨時措置について、学生、教員に通知 ・授業は当分の間自宅での自習 ・期末試験は取り止め、郵便利用などで可能な方法で行う。 ・学部4年特別研究論文、修士論文の提出期限延期 ・卒業式、修了式は当初日程どおり3月29日

年月日	震災直後からの状況（色無：神戸大学内、色付：兵庫県内他）
1月23日	電気が倒壊家屋等を除き復旧 JR、阪急、阪神の主要交通機関で代替バスの運行開始 臨時部局長会議で以下を決定 ・1月29日までの授業を休講 ・授業及び期末試験は原則として中止（医学部以外） ・平常点、レポート等による単位認定 ・卒業論文・学位論文等の提出期限延期 ・入学試験会場を神戸大学・大阪大学・岡山大学の3か所に ・入学試験期日の変更
1月24日	医学部学生ボランティアが組織され、神戸大学病院で活動開始。 その後学外救護所へも 学内のネットワークシステムが全て復旧
1月26日	阪神電車 梅田―青木間復旧 医学部附属病院において、全診療科の外来診療を再開
1月30日	図書館開館（各館書庫利用を除く。 また国際・教養系図書室（現：総合・国際文化学図書館）は閉館） 学部別に試験・授業再開などについて説明会を実施し、学生の安否の再確認（～2月2日）
2月1日	国際文化学部で水道復旧（以降他学部も順次復旧）
2月23日	「阪神・淡路大震災発生、被災、復興と防災にかんする総合的研究会（神戸大学）」略称：神戸大学＜震災研究会＞発足
3月13日	阪急電鉄、三宮―御影間が復旧
3月17日	神戸大学犠牲者合同慰霊祭を挙行（会場：六甲台講堂） [商船]神戸商船大学犠牲者合同慰霊祭を挙行（会場：神戸商船大学講堂）
3月24日	卒業式を挙行（会場：六甲台講堂及び周辺の教室にビデオ中継） ガスが全学で復旧

展示資料名／パネル資料名	種類	発行年、出典資料	電子版 QRコード	請求記号等
17日7:30頃 大阪方面、手前は停電している	写真	1995(平成7)年1月17日 久下正史氏撮影		震災文庫
鶴甲第1キャンパス炊出し	写真	1995(平成7)年 久下正史氏撮影		震災文庫

この冊子を他の言語に翻訳する方法

- ① スマートフォンでGoogleアプリを開く
- ② Googleレンズで翻訳したい部分を写す
- ③ 翻訳したい言語を選択
- ④ 翻訳された言語で表示される

How to translate this leaflet into other languages:

1. Open the "Google" app on your smartphone (mobile phone).
2. Use Google Lens to capture the section you want to translate.
3. Select the language you want to translate into.
4. The translated text will be displayed in the chosen language.

「神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ」について

<https://lib.kobe-u.ac.jp/da/about/>



本学の所蔵資料などの知的資産や教育・研究成果を電子化して、インターネットを通じて広く世界に発信するものです。

今回の資料展で紹介した資料は「震災文庫」に収録されており、許諾を得られた資料については、本文画像も御覧いただけます。

